

功績賞・業績賞候補者推薦書

1. 受賞候補者と所属

榎本 武揚

逋信大臣

2. 賞を受けようとする事項名

電氣工学の黎明期における学術基盤の確立と電氣学会創立への多大なる貢献

(1) 時期

1888 年～1908 年

(2) 内外の状況（250 字以内）

19 世紀末、欧米では電氣技術が急速に発展し第二産業革命が興る中、我が国でも電灯の点灯や電信の普及など、電氣の社会実装が始まりつつあった。しかし当時、国内には電氣工学を体系的に扱う学術団体が存在せず、産官学の連携や技術者の育成、知見の集約を行う場が決定的に不足していた。このような技術黎明期において、国家の近代化と産業発展を支えるためには、電氣に関する学術・技術を専門に牽引する強固な基盤（学会）の創立が急務であった。

3. 候補者の推薦理由（500 字以内）

候補者は、我が国の近代化における電氣技術の重要性をいち早く見抜き、1888 年の電氣学会創立において中心的な役割を果たした。初代会長に就任後は、卓越した先見性と強力なリーダーシップを発揮し、当時はまだ分散していた官界、学界、産業界の電氣技術者および研究者を一堂に結集。相互の知見共有と協働を促す強固な基盤を確立した。また、学術講演会の開催や機関誌の発行を通じ、最先端の電氣工学知見を広く社会に普及させるとともに、次世代を担う若手技術者の育成にも多大なる尽力を重ねた。

候補者が築いたこの産官学連携の土台と学術的基盤こそが、その後の我が国における電氣産業の爆発的な発展、および電氣工学分野の学術的隆盛をもたらした原動力に他ならない。初期の混迷期において学会を牽引し、日本の電氣技術の発展に不滅の足跡を残したその功績は極めて顕著であり、功績賞にふさわしいものと確信し、ここに強く推薦する。

参考資料

(1) 演説

榎本武揚

1888 年 Vol.1 No.1 P.3-8

電氣學會雜誌

(2) 明治二十九年一月の通常會に於て

榎本武揚

1896 年 Vol.16 No.90 P.13-15

電氣學會雜誌

4. 候補者の過去における電氣学会の受賞事項